

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な生活背景と学習面を含む様々な課題を抱えた生徒一人ひとりにしっかりと寄り添い、自らの力で進路を切り拓いていく生徒の育成に取り組む。

ユネスコスクールとしての活動やコース制、学校独自教科や総合的な学習の時間等を効果的に活用し、卒業後に一人前の大人として経済的自立・社会的自立・精神的自立を果たせるように支援する学校をめざす。そのために、学力向上・キャリア教育・人権教育（自尊感情や人間関係力の育成を含む）・国際理解教育・規範意識の醸成などに取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力向上の取組み～自立の基本となるもの

(1) 基礎・基本的事項の確実な定着を図るため、教養Aの内容を生徒実態に合わせ改善する。

(2) 学ぶ意欲を育むため、わかる授業の創造と授業力の向上を図る。

ア 学ぶ意欲を育むため、わかる授業を全教科で創造していく。また、生徒の実態に即して、少人数展開授業や習熟度別授業などの効果的な活用を図る。

イ 生徒による授業評価や教員相互の授業見学・研究授業を充実させ、授業内容・指導法の改善を図るとともに教員一人ひとりの授業力を向上させる。

※学校教育自己診断〈生徒〉の授業に関する項目の肯定的意見の割合を3年間毎年、前年度以上とする。

2 系統的なキャリア教育の展開～特に経済的自立・社会的自立に関わるもの

(1) キャリア教育の視点から、現在取り組んでいる「総合的な学習の時間」(以下「FC」)・教養A・教養B・教養体験・教養Cの内容を検討し、系統的な学習を推進する。

(2) 造形コースの内容を充実させ、学外での美術工芸展に積極的に応募したり、新しい授業内容に取り組むことで、進路実現につなげる。

(3) 情報コースの内容を充実させ、各種検定の合格率を上げることで自己の進路実現につなげる。

※進路未決定率ゼロを維持し、学校教育自己診断〈生徒〉のキャリア教育に関する項目の肯定的意見の割合を3年間毎年、前年度以上とする。

3 人権教育・国際理解教育の推進と生徒の居場所・出番作り～特に社会的自立・精神的自立に関わるもの

(1) 人権教育・国際理解教育の取組みを通じて、不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力を育成する。

ア アサーショントレーニングなどのコミュニケーション力育成とESD教育を推進する。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の居場所と出番を用意するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

イ 部活動の活性化・充実をはかり、加入率を高める。

※部活動加入率を3年間毎年、前年度以上とする。

4 規範意識の醸成、家庭・地域と連携した丁寧な生徒指導の推進～特に経済的自立・社会的自立に関わるもの

(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに頭髪など生活指導のさらなる徹底を図り、通学マナーを向上させる。

ア 遅刻指導を強化し基本的生活習慣の確立を期するとともに挨拶する態度を確実に身に付けさせる。

イ 頭髪指導の徹底を図り、自転車の二人乗りをなくすなどの取組みを強め、地域に信頼される学校を確立する。

(2) 生徒理解と中退防止の取組みをさらに組織的に発展させる。

ア 生徒の複雑な生活背景をつかむ取組みを進める。家庭連携、中高連携をさらに進め、課題の大きな生徒の指導、支援の方針を担任会、保健・相談部会、教育相談連絡会、支援委員会などで組織的に検討し、個別の指導計画の作成及び充実を図る。

(3) 家庭、地域との連携強化と開かれた学校づくり

ア 地域清掃活動及び地域の高齢者施設、幼稚園、支援学校等との交流活動の充実を図る。

イ PTA活動を推進し、家庭との協力体制をさらに充実させる。

ウ 広報活動を活発に行い、本校教育の素晴らしさを積極的にアピールする。

※中退率・生徒指導案件数を3年間毎年、前年度以下とする。

5 教職員の資質向上とOJTの充実

(1) 人材育成に努め、特にミドルリーダーの育成、初任者等教職経験の少ない教員の資質向上を学校の課題とする。

(2) 本校が長年にわたって築き上げてきた指導方策が引き継がれるようにOJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施する。

(3) 校務処理システムのスムーズな導入等ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減するとともに、教職員のICT活用能力を高める。

※研究授業・公開授業の回数・参加率を3年間毎年、前年度以上とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成28年12月実施〕	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>○「中期的目標1 確かな学力向上の取組み」に関わる観点から以下の項目の肯定的意見を検証した。</p> <p>「授業はわかりやすい」 生徒 66% (昨年度比4p増)。 保護者 58% (昨年度比15p減)。</p> <p>「教え方に工夫をしている先生が多い」 生徒 68% (昨年度比4p増)。 保護者 55% (昨年度比10p減)。</p> <p>一方、教員自身は「生徒のレベルに応じた分かりやすい授業にする努力をしている」が肯定的意見94% (昨年度比7p増)。</p>	<p>【第1回 6月11日開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 勉強したい生徒のために、7時間目を作り特進クラスを作るなどの方法も考えてはどうか。 定年を迎えたOBをボランティアとして活用することもできる。 全体の向上もだが、特化した生徒を伸ばしてやればいいのか。 部活動について、帰宅部としてアルバイトの生徒もできるものと考えてはどうか。 チーム北淀として生徒に寄り添った取組みを続けてほしい。 同好会から始め、ゲームで遊んでいる子などへの働きかけのプログラムも考えてはどうか。 部活動のOB会を使うなど、自分と年齢の違う人とのつきあいにも取り組んで欲しい。

「生徒の実態を踏まえ教科として指導方法や学習形態の工夫改善を行っている」が同 90%（昨年度比 4p 増）となっている。

授業に関しての生徒・教員の肯定的意見が増えている。授業力向上のために本年度も実施している「授業アンケートの実施→個人での分析・教科ごとの分析結果の共有」や、「ファシリテーション研修」などから、教員の授業力向上への「努力・工夫」の成果が出てきたと考えている。ただし、保護者の肯定的意見が減少している。授業参観への参加を促すことや、授業の様子を伝えることで、教員と保護者で生徒状況の共有をよりすすめることなど、学校の状況を伝える努力が必要であると考え

【進路指導等】

○「中期的目標 2 系統的なキャリア教育の展開」に関わる進路指導の観点からは以下の項目の肯定的意見を検証した。

「選択教科が工夫されていて自分の学びたいことを学べる」

生徒 68%（昨年度比 9p 増）。

保護者 88%（昨年度比 11p 増）。

「学校は進路についての情報を知らせてくれる」

生徒 72%（昨年度比 1p 増）。

保護者 91%（昨年度比 10p 増）。

「将来の進路について学ぶ機会があり熱心に指導している」

生徒 61%（昨年度比 1p 増）。

一方、教員自身も「生徒一人ひとりが興味関心適性に応じて進路選択ができるようきめ細かい情報提供を行っている」が 77%（昨年度比 5p 減）となっている。教員としては不足していると考えているが、生徒・保護者の肯定的意見は増えている。今後も、生徒が満足するよう全ての項目で 80%を越えるようよりキャリア教育の取組みを進める必要がある。

【生徒指導等】

○「中期的目標 3・4 人権教育・国際理解教育の推進と生徒の居場所・出番作り、規範意識の醸成、家庭・地域と連携した丁寧な生徒指導の推進」に関わる生徒指導の観点からは以下の項目の肯定的意見を検証した。

「北淀高校に入学してよかった」生徒 75%（昨年度比 3p 減）。

保護者 91%（昨年度比 1p 増）。

「学校に行くのが楽しい」生徒 62%（昨年度比増減なし）。

保護者 68%（昨年度比 15p 減）。

「いじめ等困っていることに真剣に対応してくれる」

生徒 70%（昨年度比 1p 増）。

保護者 69%（昨年度比 8p 減）。

「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」

生徒 58%（昨年度比 3p 増）。

保護者 57%（昨年度比 1p 減）。

「国際理解・国際交流について学習する機会がある」

生徒 59%（昨年度比 4p 増）。

保護者 66%（昨年度比 20p 増）。

「部活動に積極的に参加」生徒 40%（昨年度比 3p 増）。

保護者 35%（昨年度比増減なし）。

「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」

生徒 63%（昨年度比 2p 増）。

保護者 71%（昨年度比増減なし）。

昨年度とほぼ同様の結果となったが、保護者から見た学校に行くのが楽しいという部分で肯定的意見が減っている。また、生徒に寄り添う部分（「困っている事に真剣に対応」「気軽に相談できる先生がいる」）がまだまだ低く、より丁寧な指導が求められている。また「国際理解教育」については、昨年より肯定的意見が増えた。部活動について、肯定的意見はほぼ変わらないが、実際の部活動参加率は 23.4%と昨年度より非常に減っている。積極的な参加が弱く、より取組みの工夫が求められる。

【その他】

○昨年と肯定的意見の割合を比較すると、生徒は昨年度より上が

い。

・ホームカミングデーを作ってほしい。同窓生が集まって、現役生徒との親睦を深める話のできる場を作れないだろうか。

【第2回 10月30日開催】

・授業見学を行った。板書が綺麗である。能率良くポイントをつかんでやっており、工夫されている。発問も上手である。生徒の取組みも以前よりよい。この状況を続けて欲しい。

・北淀高校は、研修が多い。電子黒板の使い方などの研修をしないといけないが、また忙しくなってしまう。

・大半の生徒にとって魅力のあるクラブがない。ダンス好きな子が多いので、そのようなクラブを考えてはどうか。

・社会では大学5年生もおかしくないのに、高校は4年でもおかしくなっていないようにして欲しい。

・高校に行きたくても内申で行けない生徒がいる。全欠でも5が付くようにすることはできないのか。

【第3回 2月4日開催】

・学校教育自己診断について、保護者からの回答が少ない。現在実施している郵送ではなく、メールでの回答ができるようにすればどうか。郵送では保護者が見る前に捨ててしまうかもしれない。また、項目を減らすことで回答が増えるのではないかと。

・北淀高校に入ったら楽しいというポイントを伝えられていない。生徒と先生は仲がいいが、それ以上は伝わっていない。特色が伝えられればと思う。

・北淀高校が良かったという生徒、保護者が多いにもかかわらず、後輩に勧めたいという動きに繋がっていないようだ。

・学校が発信に力を入れていると答えている保護者は約4分の3になっており、情報がわかるのは大切だと思う。

・保護者のアドレスを集めれば、メールで情報提供等ができるのではないかと。

・保護者の無関心を感じる。PTAの会議や行事への出席が少ない。実際に活動すれば楽しいと思う。閉鎖的になってはいけないと考えている。

今は、文化発表会や体育祭しか、PTAの活動が目につく場がない。授業参観の参加者も少ないので、同じ日に生徒と共に活動するなど、保護者の参加できることを取り入れたら、生徒も保護者の姿を見ることができてよいのではないかと。

・部活動の加入率が少ないのは厳しい。規定のクラブを勧めるだけでは無く、生徒の希望を聞いてサークル的な活動（例えばダンス）などを作れば良いのではないかと。以前の勤務校では、部には昇格できなかったが、同好会として音楽系、カラオケサークルが人気だった。いずれにせよ、生徒のニーズを聞くことが大切である。

・学校生活において、学校に長くいる楽しさを教えるのはどうだろうか。遅刻して、早く帰るのでは何の楽しみもない。外部から講師を招いての企画なども増やし、学校の楽しさを教えられればよい。

・クラブをしていない子は同窓会にも来ない。楽しかった思い出が少ないのではないかと。同窓会に参加しているのは、クラブをしていた人が中心である。

・荒れた時のイメージがあり、それが定員割れの一番の要因ではないだろうか。保護者はかつての荒れていた時代のイメージのまま見ている。部活動についても、昔はできなかった競技というイメージが教員にある。今の子は、あまり無茶はしないので幅を広げて、いろいろな部活動を作れば良いのではないかと。

・授業改善等は、教員がどこまでICTを活用できるかにもかかっている。今の先生は大変だと思う。活用する教員が40%から60%に増えたが、100%を目標に頑張りたい。やらない先生はどこまでもやらないのではなく、100%を目標に掲げ、近づけるよう鼓舞して欲しい。

・先生方から、「学校を良くしよう」という意気込みを感じるのと、それを失わないチーム作りをして欲しい。

・学校が努力されているのはよく分かる。英語の授業でICTを活用している場面を見たが、新鮮だった。ICTを活用した教材を作っていくのは素晴らしい。

・性教育については是非とも進めて欲しい。出産するまで一度も受診した事が無い人もいる。そのような場合、救急で受け入れてもらえるところが無い。

・アンガーマネジメントについても、是非とも進めて欲しい。

っている項目が多く(24項目中20項目)、保護者も昨年度より上がっている項目が多い(25項目中14項目)。教員はほぼ半分の項目において肯定的意見の割合が下がっている(26項目中14項目)。数値の下がった項目については、一概に取組みが停滞しているとも言えないが、各分掌・学年・委員会・教科等において確認し、必要に応じて改善に向けて取り組んでいる必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標()内は27年度	自己評価
1 確かな学力向上の取組みと自立の基本となるもの	<p>(1) 基礎・基本的事項の確実な定着を図るため、教養Aの内容を生徒実態に合わせ改善する。</p> <p>(2) 学ぶ意欲を育むため、わかる授業の創造と授業力の向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒実態に合うように教養Aの改善を教養科全体で取り組む。その際、キャリア教育の視点からFCとの連携についても視野に入れて検討する。 <p>(2)</p> <p>ア わかる授業の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づける。その上で、1回目のアンケート後に教科毎の公開授業と研究協議を実施。2回目のアンケート結果をもとに成果と課題を確認。3学期早々の職員会議で全体で共有する。 <p>イ 少人数展開授業や習熟度別授業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの学力をより伸ばすために、習熟度別授業、少人数展開授業、チームティーチングのさらなる充実を図る。 <p>ウ 生徒実態に合わせた学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学意欲の高い生徒に対して、1年時より長期休業前等に特別講習を実施する。 生徒の学習習慣の確立に向けて、進路資料室を改修し、生徒が放課後に校内で学習できる場として整備し、活用する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート及び学校教育自己診断において、教養Aに対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(授業アンケ3.14、自己診断68%) <p>(2)</p> <p>ア・授業アンケート、学校教育自己診断の結果、授業に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(授業アンケ3.13、自己診断62%)</p> <p>イ・授業アンケートにおいて、実施教科・科目の授業に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(英語・数学:3.18)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画通りに実施できたか。 <p>ウ・進学講習の参加人数、実施回数が前年度を上回ったか。(1年9時間延57名、2年9時間延68名、3年週1回最終回28名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が放課後に校内で学習できる場の整備に進展があったか。また、適切に活用できたか。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートは3.07、学校教育自己診断では65%とやや減少している。今年度は生徒指導に追われ、教養Aの改善が十分にできなかった影響がある。(△) <p>(2)</p> <p>ア・授業アンケート結果は3.22、学校教育自己診断では66%と、前年度を上回った。(◎)</p> <p>イ・授業アンケート結果は3.02と下っており、各教科で総括する必要がある。(△)</p> <p>ウ・進学講習については、1年7時間延21人、2年7時間延31人、3年13時間延23人と減っている。生徒の様子をみると、AO入試、指定校推薦入試の希望者が増えたことが原因の一つと考えられる。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新校立ち上げに合わせ、今後の教育環境の整備について考え、進めている。(○)
2 特に経済的自立・社会的自立に関わるもの	<p>(1) キャリア教育の視点から、現在取り組んでいる「総合的な学習の時間」(以下「FC」)・教養の内容を検討し、系統的な学習を推進する。</p> <p>(2) 造形コースの内容を充実させ、学外での美術工芸展に積極的に応募することで、進路実現につなげる。</p> <p>(3) 情報コースの内容を充実させ、各種検定の合格率を上げることで自己の進路実現につなげる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア キャリア教育の再構成</p> <p>キャリア教育の内容をFCと教養の授業に反映させる。そのために、FC委員長と教養科長による連携会議を開催し、できるだけ速やかにカリキュラムに反映させる。</p> <p>(2)</p> <p>イ 造形コースの工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門コース「造形」がより生徒の期待に応えるものとなるように、授業内容等のさらなる充実を図る。 学外での美術工芸展に積極的に応募する。 <p>(3)</p> <p>ウ 情報コースの工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門コース「情報」がより生徒の期待に応えるものとなるように、授業内容等のさらなる充実を図る。 各種検定受験者数や合格率の向上を図る。 	<p>ア・学校教育自己診断において、キャリア教育に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(項目25:60%)</p> <p>(2)</p> <p>イ・授業アンケートにおいて、造形コースの生徒の「美術」に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(3.38)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外での美術工芸展への応募数が前年度を上回ったか。(92件) <p>(3)</p> <p>ウ・授業アンケートにおいて、情報コースの生徒の「情報」に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(3.24)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種検定受験者数、合格率が前年度を上回ったか。(受験者数102名、合格率90.2%) 	<p>ア・学校教育自己診断においては、肯定的な回答が61%と微増した。(○)</p> <p>(2)</p> <p>イ・授業アンケート結果は3.36と、昨年度より微減した。より効果的な工夫をすることができなかった結果と思われる。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外での美術工芸展の応募数は91件で、ほぼ昨年同様であったが、地域との連携による取組みが進んだ。(○) <p>(3)</p> <p>ウ・授業アンケート結果は3.34。今年から授業改善で「聴写」に取り組んだが、その成果が出たのではないか。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種検定受験者数は100名、合格率89.3%と昨年より微減した。昨年度より層として大人しい生徒が多いのが影響したのかも知れない。(△)

府立北淀高等学校

<p>3 人権教育・国際理解教育の推進と生徒の居場所・出番作り 会的自立・精神的自立に関わるもの</p>	<p>(1) 人権教育・国際理解教育の取組みを通じて、不和や対立を乗り越える豊かな人間関係をつくる力を育成する。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の居場所と出番を用意するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。</p>	<p>(1) ア 人権教育・国際理解教育の取組み ・アサーショントレーニングなどのコミュニケーション能力育成の取組みを行う。 ・障がい者との交流、JICA講演、留学生交流などを実施する。 ・アンガーマネジメントやネットリテラシー、虐待から考える性教育など、新たな人権教育の取組みを創造する。</p> <p>(2) ア・生徒の自立心や主体的な行動力、集団への帰属意識等をより高めるために、生徒がより自主的に活動できる取組を増やすなど、体育祭、文化発表会等の学校行事のさらなる充実を図る。 イ・新入生歓迎会、部活動紹介、体験入部、部活動入部キャンペーン、部活動の発表機会をさらに充実させたり、4月に入部し損ねた生徒が入部しやすい機会を設けたりするとともに、部活動を行うことのメリットを伝える機会を新たに設ける。また、あらゆる機会を捉えて部活動を顕彰する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断において、「人権教育」「国際理解教育」の項目の肯定的評価が前年度を上回ったか。(人権 62%、国際理解 55%) ・生徒指導案件における「暴力/ネット/人間関係のトラブルに関する事案」が前年度を下回ったか。(計 28 件) (2) ア・学校行事の満足度が前年度を上回ったか。(自己診断 70%) ・学校行事に更なる工夫改善を行えたか。 イ・部活動加入率が前年度より上回ったか。(29.9%) ・部活動加入増に向けた更なる工夫改善を行えたか。</p>	<p>(1) ア・人権教育は 64%、国際理解教育は 59%で昨年より微増した。(○) ・暴力/ネット/人間関係のトラブルに関する事案は 28 件で、昨年度と同様であった。減らすことができなかったことを受け止め、FC等の検討をする必要がある。(○) (2) ア・学校行事の満足度は 63% (△)。体育祭当日が雨天のため、開催時間が半減したことも影響していると考えられる。 ・体育祭において、北淀高校として初めて応援団を結成し応援合戦を行った。生徒から思いを出させ、自立の支援ができた。(◎) イ・部活動加入率は、23.4%。特に今年の1年生が学外での遊興に興味が高い生徒が多かったのが影響している。(△) ・部活動加入増に向け、新入生歓迎会の部活動紹介は、生徒たちが生き生きと自分たちの活動を紹介できたが、部活動加入率の増加にはつながらなかった。(○)</p>
--------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 規範意識の醸成、家庭・地域と連携した丁寧な生徒指導の推進 ↳特に経済的自立・社会的自立に関わるもの</p>	<p>(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに頭髪など生活指導のさらなる徹底を図り、通学マナーを向上させる。</p> <p>(2) 生徒理解と中退防止の取組みをさらに組織的に発展させる。</p> <p>(3) 家庭、地域との連携強化と開かれた学校づくり 実 才、PTA 活動の推進と家庭との協力体制の充実 力、広報活動の充実</p>	<p>(1) ア 頭髪指導 ・現行の頭髪指導を継続し、さらに指導の定着を図る。 イ 通学マナーの向上 ・学警連携も含め、通学マナーの指導及び交通安全指導をさらに強める。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。 ウ 遅刻指導 ・引き続き、全校を挙げて遅刻指導の徹底と定着を図るが、指導方法についてはより効率の良い改善を行う。 エ 挨拶指導 ・集会等いろいろな機会を通じて指導する。また、朝の挨拶運動や日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気醸成する。また、挨拶についての新たな取組を検討、実施する。</p> <p>(2) ア 生徒への支援 ・校内での組織的連携、家庭・中学校とのさらなる連携を進め、個別の指導計画を作成する。また、教育相談室や保健室での生徒への丁寧な対応を通して、生徒が教育相談をさらに有効活用できるようにする。 ・精神科医師や大学の先生との事例検討会等を通して、配慮を要する生徒等への支援や指導に向けての教職員の指導力の向上に取り組む。 ・担任団、特に1年担任団と管理職、他の組織との連携を一層深めるとともに、家庭との連携、外部機関との連携をさらに図り、SSWやSCの活用も通してさらにきめ細やかな指導を行う。 ・教職員が生徒と向き合う時間をさらに確保するために、校務分掌、業務分担の見直しや業務の効率化を図る。</p> <p>(3) ア 地域連携 ・生徒、教職員、PTAが協力して地域の清掃活動をさらに活発化させる。フォークソング部、和太鼓部、ボランティア部等を中心に高齢者施設や幼稚園、支援学校等との交流活動を促進する。 イ PTA活動 ・PTA活動を積極的に展開し、より広範な家庭連携を構築する。 ウ 広報活動 ・不本意入学の減少のために広報活動のさらなる充実を図る。</p>	<p>(1) ア・繰り返し頭髪指導を受ける生徒の数が前年度を下回ったか。(69件) イ・近隣からの指摘の件数や通学マナーでの指導件数が前年度より減少したか。(12件) ウ・遅刻総数が前年度を下回ったか。同時に欠席総数も前年度を下回ったか。(遅刻総数 15976 件、欠席総数 8792 回) エ・学校教育自己診断において、挨拶に対する生徒の肯定的意識が前年度を上回ったか。(63%)</p> <p>(2) ア・各種連携および個別の指導計画に広がりや深まりがあったか。 ・学校教育自己診断における「教育相談」に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(項目6:67%、項目7:55%) ・昨年度に比べて、研修の内容等に広がり、深まりがあったか。 ・中退者数が前年度を下回ったか。(27年度 34名) ・校務分掌や業務分担の見直し、業務の効率化の結果、生徒と向き合う時間の確保に効果が見られたか。</p> <p>(3) ア・地域清掃の参加人数が前年度を上回ったか。(2回延 190名) ・部活動の地域交流の取組みに広がりや深まりがあったか。 イ・PTA活動における学校行事の保護者の参加数が前年度を上回ったか。(195名) ・学校教育自己診断における「保護者交流」に関する肯定的回答が前年度を上回ったか。(57%) ウ・学校教育自己診断において、「教育情報の発信に力を入れている」に対する肯定的な回答が前年度を上回ったか。(73%) ・新たな企画など、広報活動に広がりがあったか。</p>	<p>(1) ア・繰り返し頭髪指導を受ける生徒は 48 件であった。少しずつはあるが、指導が定着してきている。(◎) イ・近隣からの指摘の件数や通学マナーでの指導件数は昨年より激増し 52 件であった。今年の1年生が中学時代より学外でたむろしており、その癖がなかなか抜けずに指導に時間がかかった。1学期から2学期にかけ、校外指導、HRでの指導を重ね、2学期末にはほぼ無くなっている。(△) ウ・遅刻総数は 11128 件で大幅に減少したが、欠席総数は 9988 回と増加した。欠席総数増は遅刻指導と関係なく、長欠生徒の増加による。(○) エ・学校教育自己診断における、挨拶に対する生徒の肯定的意識は 63%と変わらなかった。呼びかけを強めていきたい。(○)</p> <p>(2) 各種連携については、中学校との情報共有や、行政機関、病院等との連携が深まっている。個別の指導計画についても生かしている。(○) ・学校教育自己診断における教育相談に対する肯定的な回答は、項目6が 70%、項目7が 58%であった。(○) ・昨年度より、研修の成果が日々の生徒指導に生かしている。(○) ・校務分掌や業務分担の見直しを行い、業務の効率化は実施できた。生徒と向き合う時間を増やすことができたが、まだまだ超過勤務も多い状態が続いている。(○)</p> <p>(3) ア・地域清掃の参加人数は2回で 140 名であった。これは部活動参加者減と連動していると思われる。(△) ・部活動の地域交流の取組については、新たな団体に協力するなど広まっている。(○) イ・PTA活動における学校行事に参加した保護者の数は 200 名弱で、ほぼ昨年同様である。(○) ・学校教育自己診断における「保護者交流」に関する肯定的回答は 69%と増加した。(◎) ウ・学校教育自己診断における「教育情報の発信に力を入れている」に肯定的な回答は 74%とほぼ同じであった。(○) ・広報活動において、各種説明会での丁寧な対応ができ、広く情報発信が進んでいる。(○)</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

府立北淀高等学校

<p>5 教職員の資質向上とOJTの充実</p>	<p>(1) 人材育成に努め、特にミドルリーダーの育成、初任者等教職経験の少ない教員の資質向上を学校の課題とする。</p> <p>(2) 本校が長年にわたって築き上げてきた指導方策が引き継がれるようにOJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施する。</p> <p>(3) 校務処理システムのスムーズな導入等ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減するとともに、教職員のICT活用能力を高める。</p>	<p>ア・教育センターの研修なども利用し、ミドルリーダーの育成に努める。</p> <p>イ・首席等を活用し、初任者等の教職経験年数の少ない教員への計画的な校内研修を実施し、資質向上を図る。また、授業改善のために、教科毎の授業見学・改善の取組みの中で、特に初任者の育成に配慮をする。</p> <p>ウ・管理職の丁寧な授業見学助言指導及び教職員相互のブレインストーミング等を活用した研修など、新転任の教員等に対して、OJTを中心とした取組みを計画的・組織的に実施する。</p> <p>エ・校務処理システム等ICTの活用をさらに推進し、校務の効率化を図る。</p>	<p>ア・外部研修等を積極的に活用し、首席等につながる人材を育成できたか。</p> <p>イ・初任者の授業改善につながる授業分析や指導助言を複数回実施できたか。</p> <p>・初任者等の校内研究授業を年間2回以上実施できたか。</p> <p>・初任者等教職経験年数の少ない教員の生徒による授業アンケートの結果(項目3～9の平均)が4点満点中2.8を上回ったか。</p> <p>ウ・計画的組織的に研修を実施できたか。</p> <p>エ・校務処理システム等の活用が校務の効率化に役立っているとする教職員の回答が前年度を上回ったか。(76%)</p>	<p>ア・外部研修等には、若手を中心に積極的な参加ができています。府の高校再編整備のプロジェクトチームで、若手がどんどん成長していると感じている。(◎)</p> <p>イ・初任者は無論のこと、全教員への授業アンケート及び授業見学の振り返りができています。(○)</p> <p>ウ・初任者の校内研究授業は年1回であった。初任者は全て生徒指導部常駐のため、生徒指導に追われた側面がある。(△)</p> <p>・初任者の授業アンケートの3～9の平均値は2.98であった。(◎)</p> <p>ウ・校内研修については、計画的に各分掌が進めることができた。(○)</p> <p>エ・校務処理システムが日々の校務の効率化に役立っているとする教員は65%であった。昨年度より大幅に減ったが、システムの導入から一定の時間が経ち、「新たな効率化」を実感できなかったのが背景にあるのではないかと。(△)</p>
------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------